

## 「敬老（ふれあい）給食会」取材しました！

「チーム名東」は2008年10月20日（月）に前山小学校で行われた「敬老（ふれあい）給食会」を取材しました。取材したのは椋山女学園大学教育学部1年生の守永光希と松岡彩です。

校長先生によると、昨年までは高齢者のみなさんだけで別室で給食を味わってもらっていましたが、今年からは、実際に教室に入ってもらって、子ども達との「ふれあい」を楽しみながら昼食をとるという形態にしたそうです。

ふれあい給食は、まず、栄養教諭による「高齢者の食事と栄養についてのお話」から始まりました。栄養教諭の小林先生が、漫画や〇×クイズを使ってわかりやすく説明してくださいました。4時間目の終了を知らせるチャイムが鳴ると、各教室担当の子どもたちがお年寄りのみなさんを迎えにきてくれます。そしていよいよ各教室に分かれての給食タイムです。子ども達はお客さんの存在に、嬉しくてうきうきした様子。自分がどこに住んでいるか、家族構成、習い事などについて、口々にお年寄りに話しかけています。お年寄りのみなさんも、ニコニコと嬉しそうに対応されています。そしてあっという間に給食の時間は終わり、短い時間でしたが、折紙を一緒に折ったり、クラスで育てた朝顔の種をお年寄りにプレゼントしたりして、給食会は終了しました。

参加した70代の女性にお話をうかがうと、「初めて会う子ども達だったので、ご飯を食べながら間がもつかなあとはじめは少し心配だったのですが、子どもたちがいろいろと話しかけてくれ、折り紙を作って寄ってきてくれたので楽しかったです。毎年参加しているので来年もまた参加したいです」とのお話を聞くことができました。



この活動に参加してみて、この「ふれあい給食会」は高齢者にとっては、お孫さん以外の子どもと触れ合ったり、小学校の給食を味わったりと楽しい時間を過ごすことができ、また子ども達にとっても普段は関わりが薄い高齢者の方とかかわりをもつ貴重な機会になっていると感じました。ただ、参加者が高齢者なので、足の悪い方もおり、階段をのぼって教室に移動するのが大変な方もいらっしゃいました。また、主催した自治会の方による

と、前日に地区の運動会があったために、例年よりも参加者が少なかったとのことでした。

地区の高齢者の方の生き生きとした生活のひとつになる「ふれあい給食会」。これからも多くの子どもとお年寄りのふれあいの場として続いていってほしいなあと感じました。